

事業報告概要書（公表版）

1 基本情報							
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要					
都市部の公園・南部グループ		（指定管理者名）公益財団法人 東京都公園協会 （団体の概要）都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。					
指定期間							
R5.4.1 ～ R10.3.31（5年間）							
2 施設名		3 収支(単位:千円)					
日比谷公園・芝公園・青山公園・林試の森公園・蘆花恒春園・祖師谷公園			令和7年度	令和6年度	令和5年度	公園別支出額 日比谷公園：319,127 芝公園：170,525 青山公園：55,896 林試の森公園：137,319 蘆花恒春園：115,922 祖師谷公園：111,168	
		項目	金額	金額	金額		
		収入 計	914,560	765,762	708,447		
		内訳	指定管理料	914,560	765,762		708,447
			利用料金	0	0		0
			その他収入	0	0		0
		支出 計	909,957	767,073	707,278		
		収支差	4,603	△1,311	1,169		
4 管理運営の概要							
基本理念「ひとと緑が出会い、未来へつなげるレガシーパーク」							
1.公園の魅力アップ ○公園ごとの特徴をとらえたプログラムの企画実施 ○暮らしに身近な自然の魅力を子どもたちに伝える							
2.緑の拠点形成と安全安心 ○子どもから大人まで地域の身近な自然に親しむ機会を提供 ○安全安心な活動を可能にする、防災情報の発信、感染症対策を実施							
3.協働と連携 ○多様な形の都民協働を推進し、公園発まちづくりを進める ○周辺のまちの変化にあわせ、企業等と連携した新しい公園管理に挑戦							
5 管理状況							
①維持管理							
○日常の基本的な維持作業を愚直に進めつつ、パークビュースポットとしての魅力向上に向け、芝生や色鮮やかな花での景観創出、花木の開花向上、水域での趣ある修景づくり、開放感ある竹林・樹林地管理や樹形を意識した剪定等の各種作業を実施した。 ○日比谷公園の芝庭広場では、芝生管理の専門家をアドバイザーに招き、作業頻度を高めた芝刈・灌水・施肥等に加え生育や利用状況を踏まえた提案・指導を受けた。それに基づき管理作業を実施。年間を通じ良好な芝生景観の維持と安全な利用環境の提供を推進した。 ○芝公園では、保育園と協働した花壇づくりや植替え時に抜き取った花の来園者配布、企業CSRによるベンチ再塗装を実施し、来園者参加型の維持補修へ発展させた。また、戦後80年にあわせ「こども平和塔」では建設当時の姿をイメージした外観補修を行い見栄えを改善し、レガシー継承を意識した維持管理を行った。 ○青山公園では、ビオトープの面積を2倍に拡大し常時開放することで、生物多様性に配慮した維持管理を推進したほか、新規ボランティア立ち上げを支援してナチュラルガーデンづくりを本格的に開始。また、イベント時期に合わせたベンチの計画的な塗装改修を実施し、施設の長寿命化と滞在環境の向上を図った。 ○林試の森公園では、多くの利用者が立ち寄る六角堂の全面補修と継続的な水域・緑地管理により、公園を代表するパークビュースポットとしての魅力を発信した。 ○蘆花恒春園では、文化財景観を守る計画的維持管理として7箇所の竹垣補修や固定式ベンチから移動式ベンチへの改善を実施し、景観保全と利用環境の向上を両立した。さらに、公園とボランティア主導の雑木林保全にスターバックスコーヒージャパンが参画し、コーヒークサと落ち葉による腐葉土を活用した資源循環の森づくりが始動した。 ○祖師谷公園では、利用者の声を踏まえ近隣3保育園、ペイント・アーティストと協働でトイレ外壁ペイントを実施し、さらに明るく親しみやすい施設へ改善。また、健康遊具周辺の遮熱塗装や介助用ベッド設置による快適性向上を図った。							
②利用者への対応							
○各公園の特色や地域資源を活かしたプログラムを企画・実施し、公園および周辺地域の魅力向上と利用促進を図った。日比谷公園では「HIBIYA PARK TERRACE」を開催し、芝庭広場を活用した音楽イベントや野外シネマ等により新たな公園利用シーンを創出した。芝公園では東京都文化財ウィーク公認のガイドツアーや利用者を“広報大使”とした写真イベント等を実施し、地域と連携した魅力発信を推進した。青山公園では近隣美術館と連携したアートイベントや、日比谷・芝・青山の3公園をつなぐロングウォーキング&ロングサイクリング企画を実施し、広域的な回遊性向上につなげた。林試の森公園では夏休みに「森のサマースクール」を初開催し、環境学習拠点としての利用促進を図った。蘆花恒春園では竹林や文化財環境を活かしたライトアップや文化体験を実施した。祖師谷公園では開園50周年記念として「スポーツフェスタ」や、「公園マイプラン」による利用者提案型イベントを展開し、多世代の来園促進と愛着形成につなげた。 ○防災の取組を通じ、利用者が安全・安心に過ごせる環境づくりを推進した。日比谷公園では千代田区等と連携した防災フェスタを開催し、防災意識の向上を図った。芝公園では防災ガイドツアーを実施し、公園防災機能への理解促進につなげた。青山公園・蘆花恒春園では近隣保育園等と合同防災訓練を実施し、防災拠点としての役割強化につなげた。林試の森公園・祖師谷公園では自治会や行政等と連携した防災イベントを開催し、地域の防災力向上を図った。 ○共創の考えのもと、利用者の公園運営への参画を推進した。全公園で自治体や町会等とのパークミーティングを年2回開催し、多様な意見を運営へ反映した。日比谷公園では20団体が参加し、新たなイベント実施や企業CSRによる維持管理協力へと発展した。芝公園では企業・地域団体等との連携により、ガイドツアーの充実や定期的な花壇づくりに関わる取組へ発展した。青山公園では特別支援学校と連携したビオトープ看板制作により、新たな公園スポットの発信につなげた。林試の森公園では日本大学と連携して子ども向けの樹木マップを作成し、掲載樹木42種に樹名板を設置。学生らと協働したRPG形式の樹木ガイド「MORIMORIクエスト」を開催した。蘆花恒春園では意見交換と合意形成のもとゴミ箱7箇所を全撤去し、公園美化とゴミ持ち帰りマナーの普及につなげた。祖師谷公園ではスケートボード利用者組織と協働し、月例清掃や初心者体験教室を通じて利用者が維持管理に関わる取組を推進した。							
6 利用者アンケート結果							
実施方法：公園内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート							
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応		
日比谷公園	4.7	4.9	4.3	4.8	4.6		
芝公園	4.8	4.8	4.6	4.8	4.8		
青山公園	4.7	4.6	4.5	4.7	4.7		
林試の森公園	4.8	4.8	4.6	4.8	4.6		
蘆花恒春園	4.9	4.9	4.6	4.8	4.9		
祖師谷公園	4.7	4.6	4.3	4.4	4.6		
7 入園者数の状況（単位：人）							
施設名	当該年度	分析					
日比谷公園	2,388,721	芝庭広場を活用した多様なプログラム展開により新たな利用層を取り込み、来園者数は増加した。					
芝公園	1,392,170	増上寺や東京タワーと提携するなど年間を通じて新しい切り口のガイドツアーやもみじ谷ライトアップなどで賑わいを創出した。					
青山公園	342,657	近隣美術館と連携したアートイベント、特別支援学校との出張自然観察会・看板作りなど、地域連携が進展した。					
林試の森公園	728,917	夏休みのジャブジャブ池や「森のサマースクール」の新規実施等により利用が拡大し、来園者数は増加した。					
蘆花恒春園	823,482	竹林を開放した冷涼空間「かやぶきサロン」や、初の恒春園ライトアップなど夏冬の集客に工夫を凝らした。					
祖師谷公園	1,097,348	開園50周年を記念した特別イベント「スポーツフェスタ」や「ワンダーパーク」を開催し、多くの利用者とともに50周年を祝った。					
合 計	6,773,295						



日比谷公園

進化を続ける公園 “Hibiya Park”
まちとつながる新しい体験を誰にでも



所在地：千代田区／開園面積：16.1ha

芝庭広場の新たな価値を創出、多様な利用者に関かれた公共空間へ



日比谷の街が一体で取り組んだ屋外映画上映会、「日比谷音楽祭」初となる芝庭ステージの開催

10月に開催した「HIBIYA PARK TERRACE」では、「HIBIYA CINEMA FESTIVAL 2025」と連携し、**9本の映画を連日上映**。文化的発信の場として内外から注目を集め、**7,526人が参加**。街の回遊性向上をはじめ、**賑わいを創出**した。6月の「日比谷音楽祭」では、広々とした芝生エリアで大人も子どもも音楽を楽しむ光景が広がった。更に新規取組として、平日昼のキッチンカー出店の試行で、平日のオフィスワーカーを中心とした多様な利用者が憩いや語らいを楽しむ場として、思い思いに過ごせる**“開かれた公共空間”としての新たな価値を創出**した。



日比谷公園、東京ミッドタウン日比谷、日比谷OKUROJIの3会場が連携



大きな盛り上がりを見せる日比谷音楽祭初の芝庭広場特設ステージ

都市防災を支える、幅広い世代が参加する地域協働の広がり



日比谷公園および千代田区初となる防災フェスタの共同開催の実現

千代田区と共催で実施した「千代田区防災フェスタ」は**目標1,500人を大幅に上回る6,000人**が来場。同フェスタには、丸の内消防署・丸の内警察署・自衛隊など多様な団体が参加した。小学生による防災絵画展示、乳幼児家庭向け講座、騎馬隊乗馬体験など、親子連れを中心に、**20～40代が約7割を占める参加**となり、公園で開催することで防災分野で弱いとされる**若い世代へのアプローチを実現**した。



家族で楽しめる防災ステージ



応急給水に関する質問に答える職員



応急救護訓練には多くの親子連れが参加



誰もが安心して利用できる公園をめざした、都市型バリアフリーの推進

NEW ハード・ソフト・ハートで支える、職員による「誰もが取り残されない」バリアフリー実践

千代田区作成のバリアフリーマップの監修を行うNPO法人と連携し、園内のバリアフリー施設を紹介する「ナイトバリアフリーツアー」を開催。来園者の多様なニーズに即した情報収集を行い、得られた情報をもとに施設補修を実施した。また、災害時に避難行動要支援者を安全に誘導するため、**防災介助士の資格を持つ職員によるインクルーシブ防災勉強会**を実施し、職員の現場対応力の強化を図った。さらに、11月開催「東京2025デフリンピック」に向け、手話研修への参加や所内での手話勉強会を実施、手話通訳付きガイドツアーにてサービスセンター職員がガイド役を務めるなど、**聴覚障害者を含む全ての来園者に、安心して円滑な案内・対応を実践した。**



防災介助士が指導する車椅子介助



職員がガイド役として夜の園内を案内



手話研修参加者が講師役による勉強会

「東京2025デフリンピック」を支えた公園運営の調整力と機運醸成への貢献

NEW 日比谷公園のオリエンテーリングで大会第1号メダリストが誕生！

競技会場として園内全面占用に対し、徹底した事前協議と調整で、**公園利用者の影響を最小限に抑制。スムーズな運営協力を実現した。**日比谷公会堂を大会テーマカラーにライトアップしたり、聴覚障害がテーマの映画上映、手話付ガイドツアーの協力など、**国際大会に向け機運醸成と共生社会の理解促進**を図った。



YouTubeで全世界にライブ中継



手話付ガイドツアーでは職員がガイド

安定した芝生地の維持管理

Update 芝草管理の専門家も絶賛する芝生空間

芝草管理の専門家による講習で職員の技能を高めるとともに、猛暑期の灌水や施肥、**ボランティアと連携した除草**などの管理を実施することで、美しい芝生景観を維持し、**都心で一年中芝生を楽しめる空間**を提供した。

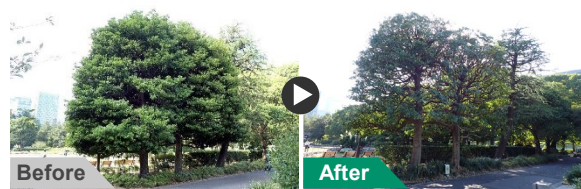


職員と企業ボランティアが協力して除草を実施

樹木の積極的な管理による安全・安心の確保

Update 点検・診断の徹底により、リスクを未然に防ぐ樹木管理体制を強化

職員が園内の中高木1,685本の**全木点検を1本1本丁寧に実施**。園路に接する樹木の多い公園として、倒木や落枝のリスクを早期に把握・対応し、**景観にも配慮した計画的な剪定**を行うことで、利用者が安心して過ごせる安全で美しい園内環境の維持に努めた。



見通しの良い空間づくりと安全対策を両立



芝公園

長い歴史と新しいまちづくりが
出会う公園



所在地：港区／開園面積：12.25ha

多くの企業や団体と連携し、公園と地域の新たな魅力を発見

NEW

文化財ウィークの公認イベント初開催！ 芝公園地域の歴史を巡るツアー

芝公園周辺に点在する文化財を巡るガイドツアーを、東京都教育委員会「東京文化財ウィーク2025」の公認イベントとして10月と11月に2回初めて開催。計26人が参加し、公園に隣接する妙定院では住職自らが解説し、「説明に感激した」「改めて巡りたい」との声が寄せられ、公園と地域が一体となった文化財の魅力発信につながった。



芝公園に隣接する増上寺や妙定院など文化財を訪問

NEW

利用者が“公園の広報大使”に！ 写真イベントによる参加型広報の新展開

プロの写真家を講師に迎え、10・11月に計16人の参加者を「公園の1日アンバサダー」に任命し、園内を撮影する写真イベントを初開催。作品は、港区立みなと図書館と東京タワーにて写真展を催したほか、SNSでの発信やポストカードにして配布を行った。利用者の参画による広報という新しい形で、公園の魅力発信を強化した。



公園で撮影した写真を、参加者同士で講評し、広報へ活用

Update

近隣幼稚園と連携した 花壇づくりの定着

昨秋に初実施した近隣幼稚園の園児・保護者との花壇づくりを、今年度は春・秋の2回開催へと発展させ、4号地プロムナードの景観を向上に寄与した。地域との継続的な協働関係の構築と子どもが草花に親しむ体験を提供した。



マリーゴールドを植える園児と保護者

Update

港区最大級イベントで 公園のSDGsを普及啓発

10月に毎年20万人以上が来場する港区主催の「みなと区民まつり」にブース出展し、テニスコートで発生したロストボールを活用した「アートボールづくり」を実施。77人（昨年度比112%）が参加し、再利用を通じて環境意識の啓発と公園のPRをした。



楽しみながらロストボールの再利用

Update

もみじ谷のライトアップ 3年連続で来場者増！

もみじ谷のライトアップを12月に20日間実施。令和5年度に単日から期間開催へ拡充して以降、3年連続で来場者が増加し、今年度は国内外から約2,500人が来場。紅葉を背景に開催したコンサートには100人の観客が集まり、夜間の賑わいを創出した。



ライトアップされた多種多様なモミジ



都心の芝公園で自然を感じる様々な試み

Update 和のスポット・おもてなしの庭で苔玉づくり

東京2020大会にあわせて開園した「おもてなしの庭」を会場に、11月に「苔玉ワークショップ」を実施。Web申込みの導入により利便性が向上し、若年層を中心に定員20人が満員となり、新規来園者の獲得につながった。参加者は作品づくりとともに**庭の魅力に触れ、公園の見どころの継続的な発信につなげた。**



おもてなしの庭での制作体験

Update 公園の草花を楽しむ体験型親子ツアー

子どもを対象とした公園の植物に親しむ「草花ツアー」を5月に実施。過去的好评を踏まえ、元「芝の語り部」をガイドに、14人の参加児童たちは五感を使って自然に触れ、高い関心を示した。ガイドボランティアの継続的な参画により、次世代に向けた**環境教育を提供し、公園価値の向上に貢献した。**



手をつないで巨樹の大きさを体感する参加者

Update 都会の夜空を満喫する星空観望会

11月に実施したNPO法人の専門的な解説を加えた「星空観望会」は、今年度より**申込み不要・定員撤廃**とし、家族層を中心に120人が参加。「感動した」との声が多くあり、電子望遠鏡の複数台活用や運営体制強化により、**夜間の利用促進と満足度の高い学びの機会の創出に寄与した。**



電子望遠鏡を使って土星を観察

近隣企業・団体との協働による園内の維持管理

NEW 企業CSRメニュー拡充による維持管理

従来は、**ゴミ拾いや落ち葉清掃が中心であった企業CSRにおいて、初の施設補修としてベンチ5基の再塗装**と花壇プランター10個の設置を実施した。官民協働による公園管理の継続的な発展と都民サービスの向上に貢献した。



ベンチの再塗装に取り組む企業

Update パークミーティングを起点とした地域参画

パークミーティングを年2回に増やし、新規に町会や港区観光大使も招聘して10団体で開催。参加団体やメンバーが**自主的に園内清掃や花壇づくりを取り組むまでに発展し、公園が地域のハブとなり園内美化に貢献した。**



参加企業による園内清掃

レガシー継承を意識した維持管理

NEW 戦後80年「こども平和塔」の外壁塗装

1954年に全国の子どもたちが集めた寄付により建立された「こども平和塔」を、**戦後80周年の節目に合わせて外壁のリニューアル塗装を実施**した。老朽化により損なわれていた外観やヒビ割れを補修し、公園に残るモニュメントの保存を図るとともに、平和の大切さを伝える学びの場としての価値向上につなげた。



リニューアル塗装したこども平和塔

防災意識向上への新しい取組

NEW 区立公園とも連携した防災ツアー初開催

戦後80周年に、港区立芝公園と連携して園内に残る戦跡を通じた平和の学びと、防災施設を巡るツアーを9月に実施。スライドによる事前説明と現地訪問を組合せ、参加者から「初めて知った」「発災時に思い出したい」との声が寄せられ、**防災意識の向上に寄与した。**



災害パンダーの説明を聞く参加者



防災パーゴラや地下貯水池を紹介



青山公園

みんなと描く都心のキャンバス



所在地：港区／開園面積：4.48ha

都心のオープンスペースで育むアート体験

Update 「アートin青山パーク」第2弾！～空の下でTシャツにアートしよう～

アートとファッションの街・青山という地域特性を踏まえ、青山公園とヨックモックミュージアムが連携し、都心の開放的な空間でアート体験イベントを11月に開催。参加は**64組160人（昨年度比205%）と倍増**。不要となったTシャツを再利用する**アップサイクル体験を通じてSDGsを推進**した。さらに英語版チラシやSNSでの二言語発信を通じ、近隣在住の外国人の子どもたちも親しみやすい公園であることをPRし、インクルーシブな利用促進を図った。アンケートでは「公園の開放感を活かした体験」に高い評価を得て、**利用促進と多様な参加層の拡大に寄与した**。



公園の伸び伸びした
オープンスペースで自由にアート



完成後はファッションショー＆
デザイナー気分でインタビュー！

多世代が選べる、豊富な健康プログラム

Update 人気のキッズフェスタにモルックが加わる

関係団体との連携により「キッズフェスタ」を5月に開催した。毎年人気のふれあい動物園やシャボン玉に加え、「モルック体験」を初めて実施した。**延べ1,088人（昨年度比127%）が参加し、公園での特別な1日を創出**。さらにイベント後も通年モルックの無料貸出しを行うことで、ユニバーサルスポーツを通じた公園利用の拡大につなげた。



キッズフェスタでのポニー乗馬



初のモルック体験も大人気！

Update 3公園をつなぐロングウォーキング＆サイクリング

青山公園・日比谷公園・芝公園の都心3公園をつなぐ広域回遊型イベントを実施。10年以上開催する人気のウォーキングは、8kmコースで43人が参加。サイクリングでは、自転車の専門団体と連携して制作した19kmのルートマップを公開。キャンペーン期間はサイクルスタンドの設置や各公園のオリジナルステッカー配布で、**複数公園の回遊を促し、魅力発見と健康増進に寄与した**。



8 kmのロングウォーク



19kmのロングサイクリング



都心の生物多様性を知り、守り、伝える

Update ビオトープ面積 2 倍に拡大

昨年度整備したビオトープの面積を 2 倍に拡大。あわせて常時一般開放し、周辺の教育機関へ周知も行うことで、都心における環境学習の場としての活用を促進した。



ビオトープ拡大で観察しやすさもアップ！

Update 企業連携の自然観察会

東急建設㈱と連携し、10月にビオトープの自然観察会を実施。子ども20人が参加し、ヤゴなどを観察。専門家の解説を受け、自然の面白さや大切さを実体験を通じて学んだ。



専門家による楽しい自然観察会

NEW 子ども発信！生物マップ

観察会に参加した子どもらが「生き物マップ」を作成し、港区ふれあいルームで掲示。子どもの発見が次の子どもたちの「見てみたい！」につながり、公園への関心を広げた。



子どもから子どもへ伝えるマップづくり

みんなで共につくる公園の新名所 ～ナチュラルガーデンと公園の看板～

NEW 新ボランティアの花壇デザイン

公園が主体的に後継者育成を進めたナチュラルガーデンのボランティアが団体を結成。宿根草中心の四季を通じて楽しめる管理を始動した。



新ボランティア7人による宿根草花壇づくり

Update 特別支援学校とビオトープ看板をデザイン

昨年度にわくわくスクエアの看板を協働制作した特別支援学校と、今年度はビオトープ看板を制作した。職員による出張自然観察会で公園の動植物を解説した上で、生きものを鮮やかな色彩で表現。公園と学校の双方の取組や魅力を伝える作品となった。



特別支援学校へ出張自然観察会



生徒らがビオトープの動植物を色鮮やかに紹介

施設の改善と活用による滞在環境の向上

NEW イベントにあわせたベンチの計画的改修

景観向上と施設の長寿命化を目的に、北地区のサークルベンチの塗装を実施。公園で最も来場者の多い5月の「キッズフェスタ」と「Aoyama Garden Café」に工期をあわせて実施したことで、最良の施設提供を行った。



塗装をし、来園者の滞在性と景観が向上したベンチ

NEW Aoyama Garden Café

修繕したベンチ前にキッチンカーを配置。緑の中で快適な時間を過ごせる場を提供し、利用者の満足度向上につなげることができた。



ベンチでくつろぐ来園者



林試の森公園

緑と笑顔が芽吹く公園



所在地：目黒区・品川区／開園面積：12.34ha

初開催！夏休みの「森のサマースクール」で環境学習拠点化に大きく貢献

NEW ガイドマップと樹名板作成で 子どもの学習環境を整備

日本大学生物資源科学部森林学科と協働し、**新しく子ども向けの樹木マップの作成**と掲載した樹木の樹名板42枚を新設した。元林業試験場由来の多様な樹種に大学の専門的知見を加え、**広い園内でも確認しやすい利便性と学習効果を向上させた。**



大学との協働で作成した樹木マップ

NEW 森林専攻の学生らと RPG形式の樹木ガイド

完成したマップ公開を記念し、8月に同大学森林専攻の学生10人と公園職員が「林試のMORIMORIクエスト」を開催。5か所の樹木を巡りミッションに挑戦していくRPG形式とし、51人が参加。**楽しみながら樹木への関心を高め、学習拠点としての活用を促進した。**



「森の賢者」役の学生らがミッションを出題

NEW バイオネストづくりで 森の資源循環を実体験

職員手製の紙芝居で、森の役割や資源循環を解説し、参加者とともに剪定枝や落ち葉でバイオネストを制作。**環境保全への理解を深めるとともに実践する場**となった。「自由研究の題材にする」、「芋虫やトカゲに触れるようになった」との声もあり、好評を得た。



子どもたちと園内の発生材でバイオネスト制作

NEW 元林業試験場ならではの工作も人気

公園ボランティアと連携し、**林試の森ならではの珍しい松ぼっくりや大きな木の実を活用した工作**「こどもスワッグ教室」（定員20人満員）と「和紙の折染め体験」（72人）を実施。**公園のPRにつなげた。**



園内素材を活用した「こどもスワッグ教室」

NEW 遊んで学んでボランティア！ゴミ拾いビンゴ

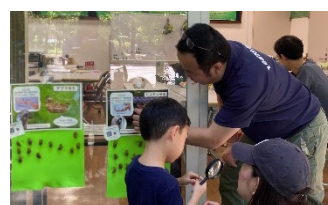
早朝に「ゴミひろいゲーム」を実施。33人の参加者は園内で拾えるゴミを事前に予想してビンゴシートを作成。清掃終了後に**ゴミの発生原因や削減方法について、みんなで考える機会を提供した。**



ビンゴ形式で楽しみながら清掃活動

Update 自然観察体験の拡充と来園促進

夏休み中毎日開催した、**公園探検して生き物を探す「ネイチャービンゴ」**と、抜け殻を集めて種類を調べる「セミのぬけがらがくらべ」に延べ338人が参加（昨年度比114%）、**継続的な来園促進につながった。**



公園職員と一緒にセミの抜け殻観察

NEW シンポジウム初開催！研究成果を地域還元

一年の締めくくりとして本取組を研究した日本大学と園内で生物調査をした高校2校と、2月に**成果発表シンポジウムを初開催**。27人が聴講し、**公園の価値を再認識する機会**となった。「公園を見直した」と地域住民から好評





パークビュースポット「六角堂」を再び輝かせて夜のイベントでお披露目

NEW パークビューを際立たせる修繕

経年劣化が進んだ六角堂について、柱・ベンチ・床面の補修と木部塗装を実施し、安全性と美観を向上させた。あわせて周辺植栽の剪定・草刈りをし、**水辺のパークビュースポットとしての景観向上と快適な滞在環境の創出に寄与した。**



水辺景観の魅力アップに貢献

Update 夜ならではの体験！ライトアップとランタンづくり

整備後の六角堂やジャブジャブ池をライトアップし、「普段とは違う夜の公園を楽しむ」をテーマに、園内の自然素材を使ったランタンづくりと約1kmのナイトウォークを9月に実施した。募集開始1週間で定員25組に達し、参加者は55人（昨年度比122%）。鳴く虫やコウモリを見つけて職員が解説し、夜行性生物への理解を深めた。**夜間ならではの特別な公園体験を創出し、魅力発信とファン定着に寄与し、イベント満足度96%と高評価を得た。**



ランタンを作ってナイトウォークへ出発！



ライトアップをした六角堂で鳴く虫を観察

新たなニーズをとらえた既存施設の活用

Update ジャブジャブ池開放～安全管理の徹底で事故0件・苦情0件～

夏休み期間、ジャブジャブ池を1日2部制・各回定員60人で開放し、監視員2人体制により安全・衛生管理を徹底した。HPでの早期周知を図ったほか、日除けタープの設置や土日祝日はかき氷等のキッチンカーを配置するなど**熱中症対策**にも万全を期した結果、**7,111人（昨年度比113%）の親子が安心して水遊びを楽しんだ。**



森の中のジャブジャブ池でクールダウン



キッチンカー配置で熱中症予防と魅力UP！

Update 緑の中で パークdeワーク

利用者の要望を踏まえ、初夏と秋にテレワークスペースを開放。延べ26人が利用し、自然環境や無料提供への高評価を得た。広報強化により新規誘客と滞在延長に寄与した。



参加者より「自然の中で仕事ができる嬉しい」

多くの団体と連携した防災訓練で、地域の防災力UP！

NEW パークミーティングで防災トイレ組み立て

過去のパークミーティングで目黒・品川の両町会から要望のあった防災トイレの組み立て訓練を実施。発災時の一連の作業を円滑に行うための**実践的な訓練**となった。**3月の防災フェアで参加者に訓練の成果を披露した。**



目黒区・品川区の町会らと訓練

Update 防災フェアin林試の森

目黒区・品川区、消防・警察、企業、ボーイスカウト等の協力を得て、「防災フェア」を3月に開催。多様な体験プログラムをスタンプラリー形式で巡り、地域住民1,000人が**楽しみながら防災意識向上と防災対応力を高めた。**

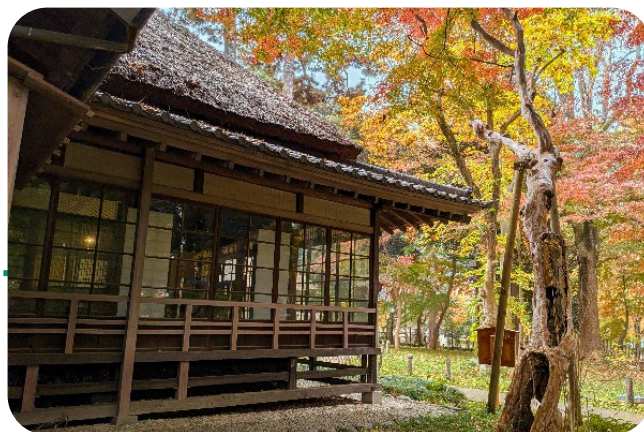


起震車をはじめ家族みんなで防災体験



蘆花恒春園

文学と、武蔵野の風を感じる、
地域に生きる公園



所在地：世田谷区／開園面積：8.03ha

古き良き環境を活かした体験型イベント

NEW 竹林の風と木陰を活かした涼感サロン

8月の酷暑期に竹林を特別開放し、通り抜ける**風と木陰を活かしたくつろぎスペースを創出**した。3日間で40組66人の住民が集う交流の場を創出し「世田谷区とは思えない」と感動の声が寄せられた。



普段は立ち入りできない竹林の特別開放

Update 文化財を舞台にした伝統芸能の公演

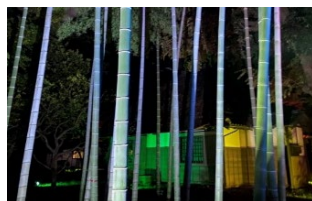
地域団体と連携し、文化財建築と自然環境を一体的に活用した伝統芸能コンサートを開催。演目構成や会場運営を改善し、5、9、11月の3回**合計637人（昨年度比182%）の参加を達成した**。



茅葺旧宅を舞台にした伝統芸能コンサート

NEW 都立庭園のノウハウで初ライトアップ

11月に開園時間を一夜限定で特別延長し、蘆花恒春園では初となるライトアップを実施した。長年の実績を有する都立庭園の機材や手法を導入し、高い鑑賞性を確保。ジャズコンサートも加わり、**初開催ながら260人を集客し、新たな公園の魅力創出につなげた**。



都立庭園の技術を活かしたライトアップ

公園を起点とした地域循環型の資源活用

NEW 資源と人が循環する協働の森づくり

公園職員とボランティア主導の雑木林保全にスターバックスコーヒージャパンが参画。店舗で発生するコーヒーかすと公園の落ち葉で腐葉土をつくり、土壌改良に活用。**資源循環の森づくりが始動した**。



店舗スタッフも保全活動に参加



店頭にて本プロジェクトの展示も

Update 中学生と企画！廃材活用のワークショップ

昨年度に実施した竹ランタンづくりを発展させ、今年度は**地元中学校の職場体験生が企画に参画**。竹林管理の発生材を活用したワークショップを11月に開催し、**延べ200人が資源循環への理解を深めた**。



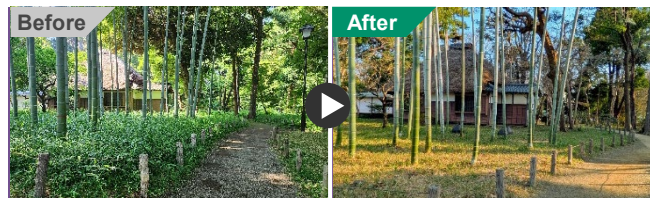
公園の竹と和紙の折染めで作る竹ランタンづくり



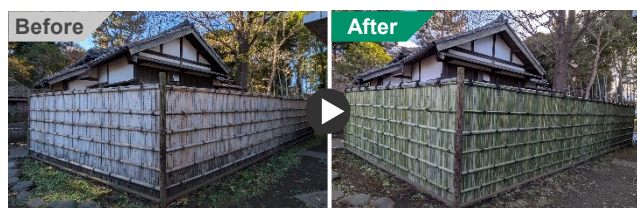
文化財景観を守る計画的な管理

Update 計画的な維持管理による景観価値向上

文化財旧宅を中心とするエリアで、保存原則を最優先に計画的な維持補修を実施。今年度は主に①竹垣7箇所を更新、②竹林・笹・樹木管理、③固定ベンチの移動型への更新を行い、**文化財の価値や景観を守りながら、快適な利用環境の向上**を図った。



②竹林・笹・樹木の密度や背丈の管理をし、歴史的な景観を保全



①竹垣7カ所を更新し、文化財の価値や景観を向上

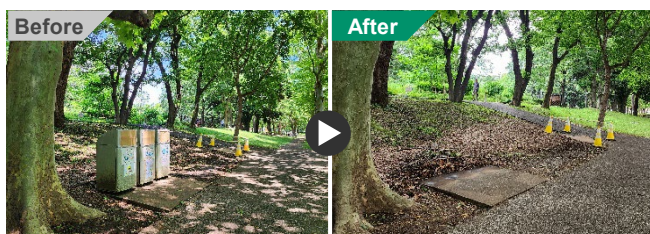


③固定ベンチを移動型へ更新し、イベント混雑時も快適な環境を維持

利用者と共に考える公園管理

NEW パークミーティングで考え進めたゴミ箱撤去

区、町会、保育園等を含む地域9団体と年2回のパークミーティングにおいて意見交換と合意形成の上、**園内ゴミ箱7箇所を全撤去**。その結果、ポイ捨ての増加は確認されず、**公園美化と持ち帰りマナーの普及**に貢献するとともに、地域との協働を推進した。



ゴミ箱撤去前後の園内状況

都立公園を核とした地域防災連携

Update 園庭代替機能を活かす合同防災訓練

令和6年度パークミーティングで「園庭がなく訓練できない」との声を受け、園庭のない近隣6保育園の園児65人と合同防災訓練を1月に継続実施。保育士14人とも**避難場所である公園への動線や初動対応を確認し、地域で助け合う防災体制づくりにつなげた**。



園庭を持たない6保育園との合同防災訓練

地域福祉と連携した公園運営の推進

Update 地域イベントを活用したフードドライブの実施

10月に公園で開催される地域最大規模の「蘆花まつり」において「フードドライブ」を実施。40人120点の家庭で余った食品が提供され、社会福祉協議会を通じて子ども食堂等へ配布された。**公園を起点とした多世代が参加できる地域の支え合い**を継続的に深めた。



10月「蘆花まつり」に出展

Update 幼児向け公園利用の定着化

半径500m圏内の園庭を持たない保育園等と連携し、自然体験型イベントを通年で実施。チューリップやヒマワリの世話体験、七夕飾り、シャボン玉イベントに延べ316人が参加し、継続的交流を通じて**公園の利活用促進と地域への愛着醸成**に寄与した。



球根や種植えをする貴重な土いじり体験



祖師谷公園

暮らしに寄り添い
みんなが集まるホームパーク



所在地：世田谷区／開園面積：9.49ha

開園50周年を記念した共創型イベントの展開

NEW 開園50周年記念 スポーツフェスタ

開園50周年を記念し、多世代が参加できる「スポーツフェスタ」を6月の開園記念日に開催。身近なスポーツからパラスポーツまで**計12種目**をスタンプラリー形式で展開し、**延べ5,000人が参加した**。車椅子テニス体験ではパラリンピック銅メダリストから手ほどきを受けた。アンケートでは**10代以下から80代以上まで**の参加があり、「普段やったことがないスポーツも体験できた」と参加者の100％が「非常に満足」「満足」と回答するなど高い評価を得られ、**公園利用促進と地域住民の健康増進に大きく寄与した**。



車椅子テニス体験



パルクール体験



スラックライン体験

NEW 公園マイプラン「ヨガ教室」

開園50周年にあわせ、令和6年度に**公園で叶えたい「公園マイプラン」**を一般募集し、優秀賞のひとつ「ヨガ教室」を実施した。6月のスポーツフェスタと同時開催することで参加層が拡大し、公園利用の定着と満足度向上につながった。



公園マイプランのヨガ教室

NEW 「そしがやワンダーパーク」はマイプランも叶えて盛大に開催！

開園50周年記念事業として、利用者提案をもとに「そしがやワンダーパーク」を11月に開催し、**前夜祭・記念祭の2日間で延べ4,500人が来場**。公園マイプランで提案された祖師谷どうぶつえん、写真展に加え、祖師谷を舞台とした小説「風が強く吹いている」の原作者らによる公園の未来を語るトークショーや、その映画版の野外シネマ、サーカス、本の読み聞かせ等の多彩な企画で、**幅広い世代の来場者が集い、賑わいを創出した**。アンケートでは、参加者の100％が「満足以上」、9割以上が「また来たい」と回答し、「いつまでも美しい公園でありますように」など感謝や愛着を示す声が多く寄せられ、**地域に根差した公園としての価値を再認識**する機会となった。



祖師谷どうぶつえん



写真展「写真でふりかえる祖師谷の風景」



公園の未来を語るトークショー＆野外シネマ



サーカスショー＆サーカス体験



みんなで共創！利用者の声と力を公園管理に活用

NEW 子どもと地域が参画する参加型のトイレリニューアル

利用者からの「公園のトイレが暗くて怖い」との声を受け、子どもの利用が多い「子どもの遊び場」のトイレを地域協働によりリニューアルした。10月、近隣3保育園がアーティストと共にペイントに参加。園児54人の「好きな動物」全てが描かれ、**みんなで作りあげたトイレアートとして愛着形成につながった**。制作過程から完成までSNSや公園HPで発信を続けることで来園者の関心を高め、「トイレが明るくなった」と好評。**利用者満足度の向上とともに、地域連携の強化につながる取組となった。**



3園54人が思い切りペイント

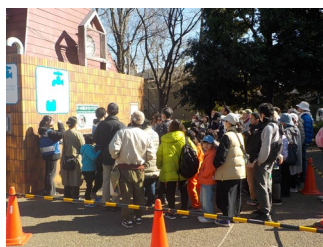


園児らの「好きな動物」54種を描いたトイレにリニューアル

地域と学ぶ、防災・環境を核とした公園活用の推進

Update 公園を核とした地域防災力向上

3月、自治会・区・消防等と連携した「防災体験DAY」に約800人が参加。計10種の体験型訓練により、広域避難場所としての機能を広く周知でき、**地域の防災意識と対応力の向上に寄与した。**



区による応急給水塔の見学ツアー



かまどベンチで焼きマシュマロ体験

Update 公園を学ぶ環境教育推進

小学校と連携し、生徒150人が参加する環境学習を実施。職員が登壇し、**公園の自然・歴史・防災を題材に授業を行い、公園への関心を高めるとともに、継続的な学校連携の基盤を構築した。**



総合学習「そしがや公園探検隊」の授業



創意工夫による利用環境改善の推進

NEW 遮熱塗装による暑熱対策

地面の遮熱塗装により、**最高気温35.4℃時で表面温度を最大8.1℃低減**。健康遊具利用者やバス待ち利用者の暑熱環境を改善し、**熱中症対策と快適性向上に寄与した。**



健康遊具周辺の遮熱塗装



バス停前の地面の遮熱塗装

最大
8.1℃
↓

Update 法面緑化と安全対策

法面緑化とロープ柵設置により裸地化を解消し、安全性と景観を向上。清掃頻度の軽減による維持管理効率化と、**子どもが安心して利用できる環境づくりを実現した。**



裸地化した法面（施工前）



法面緑化とロープ柵設置（施工後）